

高校生の成長を感じた対話授業 — 町長対話授業 —

10月1日、加悦谷高校・宮津天橋高校加悦谷学舎で14回目となる町長対話授業が開催されました。昨年度と同様に生徒が実行委員会を立ち上げ、対話授業の企画から当日の進行まですべてを手がけました。前半は「町長の仕事」「まちづくり」

「高校生と共創したいこと」についての講話。「町長の仕事」は、地方自治法の規定に基づき行っていること、やりがいと緊張感を持って当たらないといけないが、素晴らしい瞬間を感じることができる仕事であることなどが話されました。「まちづくり」は、第2次

与謝野町総合計画に基づき事業を推進している様子をスライドで説明。講話の最後には、高校生と共創してまちを良くしていきたいとの思いを込めて、「高校をより魅力的な場所にするために、高校魅力化に向けた議論に参画してほしい」「高校卒業後も同級生のネットワークを育てほしい」と2つのお願いがありました。



9人の生徒からの質問に答える山添町長

後半の質疑応答では、SDGs (Sustainable Development Goals) を授業で学んでいることもあり、環境に関する質問が多くとびだしました。「阿蘇海の水質を調べると衣服の繊維が見つかり、将来、魚が食べられなくなるのではないかと

いった質問に、町長は一つ一つ丁寧に回答。また不法投棄やゴミの問題については、「現状をSNSで発信すれば不法投棄がなくなるのではないかと」「ゴミを一定量集めたら、何かに交換してもらえたらゴミの抑制につながるのではないかと」など、問題を解決するため

の具体的な取り組みについて、生徒から提案もありました。

最後に町長から、「地域を良くしようとする提案が活発になったと感じた。これは地元を知ろうとか、環境問題について考えられている結果であるので、引き続き当事者意識を持って学校生活を送ってほしい」とメッセージが送られました。

懸命につないだ学校のタスキ — 小学校・中学校駅伝競走大会 —

10月15日、阿蘇シーサイドパークにおいて与謝野町地方小学生駅伝競走大会が、峰山総合公園において丹後ブロック中学生駅伝競走大会が開催されました。

小学生駅伝は14校(17チーム)が出場し、新型コロナウイルス感染症の対策のため2グループに分けて実施。5区間6.4kmで争われ、選手は最後まで懸命にタスキをつなぎました。

中学生駅伝は男子12校、女子11校が出場。男子6区間16.7km、女子5区間11.9kmで争われ、男子は中盤から先頭に立った江陽中学校が大会新記録のタイムで優勝し、2位に橋立中学校が、10位に加悦中学校が入りました。女子は橋立中学校が惜しくも最終区で逆転され2位に、4位に江陽中学校が、6位に加悦中学校が入りました。なお、本大会の上位6校は京都府大会に出場します。



① 1位でゴールテープを切る岩滝小 ② 勢よくスタートする選手たち ③ 3区へのタスキわたしをする市場小 ④ スパートをする加悦中 ⑤ 第4中継所でタスキわたしをする橋立中

